



## 研究データ利活用協議会

- ① オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用を進める関係者が個々の組織や分野を超えた情報共有や議論を行う場です。
- ② 研究データの利活用に興味を持ち、協議会の趣旨に賛同する方は、どなたでも会員として参加できます。

### 活動内容

#### ① 研究会

研究データの利活用について、様々な立場の方が集まり、意見交換や議論を行います。皆様の抱えている研究データ利活用に関わる課題の解決に生かすことができます。

#### ② 小委員会

より深い議論を行うため、活動テーマを定め、提言やガイドラインなどの作成に取り組みます。現在、

- データ管理計画
- 研究データへのライセンス検討
- 国内分野別リポジトリ関係者ネットワーク

の3つが活動しています。RDUF会員は、これらに参加できます。また、新たなテーマを提案することも可能です。

#### ③ メーリングリスト

メーリングリストを通じて、研究データの利活用に関するイベント等の情報を受け取ったり、共有したりすることができます。



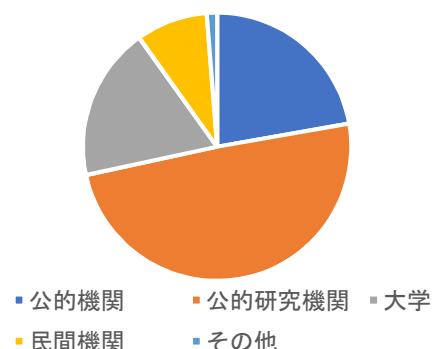
## 経緯

- 2014年にジャパンリンクセンター（JaLC）で実施した「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」にて分野を横断した研究データ利活用推進の担い手が集まりました。
- 研究データの利活用に係る議論をさらに促進するため、2016年6月に「研究データ利活用協議会」（RDUF; Research Data Utilization Forum）が設立されました。

## 会員

- 研究データの利活用に興味がある方はどなたでも、無料で参加できます。
- 現在の会員の所属機関は右の通り、公的研究機関  
大学、公的機関（図書館、博物館）等幅広く、  
職種も研究者から図書館員、学生等様々な人が参加しています。
- 現在の会員数はおよそ100名です。（2017年12月）

会員分布



## 活動方針

- 参加者による自律的な企画・運営とします。
- 日本版RDA(※)として位置づけられるコミュニティを目指します。
- 参加機関の現場の抱える課題に対応するガイドライン、ノウハウ集、事例集としてまとめることを目指します。

(※)RDAはResearch Data Allianceのこと。研究データの活用に興味を持つ研究者とイノベーターが集まり、様々なワーキンググループで提言やガイドラインなどを策定しています。多くの提言やガイドラインなどが、標準等に採用されています。

## 機関会員

RDUFの活動の趣旨に賛同し、研究会などの企画・運営を行う等の貢献をする機関

- 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST） ■ 国立大学法人千葉大学附属図書館/アカデミック・リンク・センター
- 国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS） ■ 国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）
- 国立国会図書館（NDL） ■ 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所（NII）

## これまで扱ったトピック

- 研究データ共有によるイノベーションの創出 ～第8回RDA総会等の国際議論を踏まえて～
- Digital Infrastructures for Research 2016参加報告
- 医学生物学分野におけるデータのオープン化とそのインセンティブ
- 地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム DIASプロジェクトの紹介

### ■ お問い合わせ先

研究データ利活用協議会（RDUF）事務局  
（国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）知識基盤情報部）  
e-mail: info@japanlinkcenter.org

入会はこちらから！



<https://japanlinkcenter.org/rduf/about/index.html#s003>